

○ 旭小学校

- ・ 教育活動アンケート結果について
- ・ 学校運営協議会評価

令和 2 年度美幌町立旭小学校

学 校 評 価

—結果分析と改善に向けて—



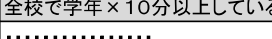
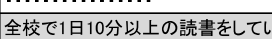
前期学校評価 教育活動アンケート結果

7月の教育活動のアンケートへのご協力ありがとうございました。保護者アンケートは215名中189名の方からご解答いただき、回収率は88%でした。多くの方からのご協力感謝申し上げます。いただきましたご意見をもとに、後期の教育活動の改善に向けて努力してまいります。

1 児童アンケート

	質問項目	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	E	平均	前年 度比	AとBの割合(%)
1	宿題や家庭学習をがんばっている。	103	58	34	11	5	3.2	+0.1	 78
2	本を読むことが楽しい。	124	47	15	12	13	3.4	±0	 86
3	学校の授業はわかりやすい。	129	60	17	3	2	3.5	+0.1	 90
4	友だちを大切に、なかよくしている。	161	37	8	2	3	3.7	±0	 95
5	学校での生活は楽しい。	146	44	8	10	3	3.6	+0.1	 91
6	学級の当番や係活動、掃除をすすんでやっている。	144	40	12	10	5	3.5	±0	 89
7	運動や遊びなど体を動かすことが好き。	151	30	15	12	2	3.5	-0.2	 87
8	元気にあいさつしている。	108	63	21	12	7	3.3	-0.2	 84
9	自分にはよいところがある(人の役に立っている)と思う。	69	59	26	21	36	3		 73
10	先生は自分のがんばりをほめてくれる。	103	57	14	12	25	3.3		 86

2 保護者アンケート

	質問項目	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	E	平均	前年 度比	AとBの割合(%)
1	家庭学習の習慣が身に付いている。	46	93	42	8	1	2.9	-0.1	 74
2	読書に親しむ習慣が身に付いている。	31	45	79	33	2	2.4	+0.1	 40
3	「学校の授業は分かりやすい」と言っている。	69	81	18	2	19	3.3	+0.2	 88
4	思いやりをもって生活している。	56	111	13	1	8	3.2	+0.1	 92
5	学校生活を楽しんでいる。	136	44	8	1	0	3.7	+0.1	 95
6	家庭では進んでお手伝いをしている。	30	84	62	13	0	2.7	+0.1	 60
7	健康に気を配り、運動や遊びに興味を持って取り組んでいる。	87	78	17	4	2	3.3	-0.1	 89
8	挨拶など、基本的生活習慣が身に付いている。	53	115	18	3	0	3.2	-0.1	 89
9	PTA活動などにおいて、家庭と学校の協力関係が築かれている。	37	69	20	3	60	3.1	-0.1	 82
10	運動会や学芸会をはじめとする各学校行事は、充実している。	50	60	16	4	59	3.2	-0.3	 85
平均時間		1年	2年	3年	4年	5年	6年		全校で1日3時間以内の割合(%)
11	1日平均、テレビやゲーム・インターネットなどは、どのくらい見えていますか。	86分	110分	118分	102分	135分	142分		 91
12	1日平均、家でどのくらい勉強をしていますか。	22分	25分	27分	38分	29分	34分		全校で学年×10分以上している割合(%)  51
13	1日平均、家でどのくらい本を読んでいますか。	12分	7分	8分	19分	15分	13分		全校で1日10分以上の読書をしている割合(%)  47

3 職員評価

		質問項目	A	B	C	D	E	平均	前年度比	AとBの割合	
重点教育目標	1	【重点1 心を磨く】 柱1 道徳実践力を育む道徳教育を推進している。	2	15	2	0		3.0			89
	2	【重点1 心を磨く】 柱2 異学年交流によるモラル教育を推進している。	4	11	4	0		3.0			79
	3	【重点1 心を磨く】 柱3 体験活動で培う自立と貢献の心を育てている。	3	10	4	1		2.8			72
	4	【重点2 知を磨く】 柱1 基礎・基本の習得と活用力を育成している。	3	13	2	0	1	3.1			89
	5	【重点2 知を磨く】 柱2 知恵を磨くための授業づくりに取り組んでいる。	2	11	5	0	1	2.8			72
	6	【重点2 知を磨く】 柱3 学習への関心、意欲を旺盛にする指導を徹底している。	1	13	4	0	1	2.8			78
	7	【重点3 体を磨く】 柱1 授業、行事等プログラム上の意図的な取組を推進している。	3	11	5	0		2.9			74
	8	【重点3 体を磨く】 柱2 生活の中で自主的に活動できる意識付けと手立てを用いて指導している。	2	11	6	0		2.8			68
目指す子どもの姿	9	子どもたちは、気持ちの良い挨拶をし、きまりを守って生活しようと努めている。	6	12	1	0		3.3	±0		95
	10	基本的な学習ルールや聞く姿勢の徹底が図られている。	3	9	7	0		2.8	-0.4		63
	11	研修と関連した「できる授業」「分かる授業」により、基礎基本の力や表現力が育っている。	1	13	4	0	1	2.8	-0.2		78
	12	子どもたちは、本に関心を持ち、読書活動に取り組んでいる。	3	10	5	0	1	2.9	-0.1		72
	13	子どもたちは、宿題や家庭学習を継続し、復習や予習、発展的な学習などに取り組んでいる。	2	11	5	0	1	2.8	-0.3		72
	14	日常的な体力づくりにより、運動に対する意欲、体力に高まりが見られる。	4	13	2	0		3.1	-0.1		89
	15	子どもたちは、一人一人の活動の高まりを認め合うこと（共感的理解）により、自己存在感や有用感を実感できている。	2	16	1	0		3.1	±0		95
教育活動等	16	各学年、教科においてバランスの良い授業時数を確保し、適切に指導している。	7	11	0	0	1	3.4	-0.1		100
	17	集団の一員としての自覚、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成のため、学級活動や学校行事、児童会活動等の充実を図っている。	4	12	3	0		3.1	-0.2		84
組織	18	職能の向上のため、研鑽と修養に努めている。	5	14	0	0		3.3	-0.1		100
	19	各分掌が連携を取り、効率的に学校運営を進めている。	9	10	0	0		3.5	+0.1		100
環境	20	児童が集中して学び、落ち着いて生活できる教室環境や校内環境が整備されている。	6	11	2	0		3.2	-0.2		89
開学から開校	21	町内小中各校、高校、保護者地域との交流や協力を努めると共に、必要に応じて教育機関との連携を心がけている。	2	13	4	0		2.9	-0.4		79

①成果

設問19「各分掌の連携」、設問18「職能」、設問16「授業時数」、設問9「学校生活・あいさつ」設問15「自己有用感」において、高い評価が見られた。

②課題

設問10「学習規律」は、昨年比-0.4、設問13「家庭学習」は、-0.3と平均値で低下が見られ、設問9「学校生活・あいさつ」と設問15「自己有用感」についても、児童・保護者アンケートとの差が見られるため、改善のための方策を検討する必要がある。

前期改善の視点

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校生活は一変しました。長期の臨時休業や分散登校、行事の中止など、多くのご不安・ご心配をおかけしましたが、児童・保護者アンケートには、多くの項目で昨年を上回る結果が見られました。アンケートからは、多くの子どもたちが、このような混乱した状況の中でも、友達を思いやり、学習活動や係活動に一生懸命取り組み、学校生活を楽しんでいる様子が伺えます。これも保護者・地域の皆様のご理解とご協力があってこそ結果と捉えています。いただきました貴重なご意見は、学校で検討し、後期に向けて改善してまいります。

児童アンケート・保護者アンケートから見えてくる旭小学校の課題は、「自分には良いところがある（人の役に立っている）」（児童アンケートNo. 9）、家庭での「読書、お手伝い、家庭学習」の習慣づくり（保護者アンケートNo. 2・6・1、児童アンケートNo. 1）です。ご家庭を連携し、子どもの成長の姿として表れるよう取り組んでまいります。

【自己有用感】⇒ 「頑張り・こだわり」を認める。「ありがとう」の感謝の気持ちを伝える

「自己有用感」は、あまり聞きなれない言葉ですが、「他者との関わりにおいて、自分の存在価値を感じたり、誰かの役に立てたなあ」という成就感や「誰かに必要とされている」という満足感という意味があります。友達と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、「人と関わることって楽しい」と感じるところから始まり、「人と関わりたい」という意欲が高まると、友達と豊かな人間関係を築いたり、他人を思いやったり、社会のルールを守ったり、集団活動に進んで参加・協力できたりといった社会性の基礎を養うことができます。

学校では、行事や、学級活動、児童会活動、学習活動に取り組む際などに、子ども自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせ、どこまで達成できたのかを振り返る場面を設けています。

アンケートから、まだ実感できていない子も多くいますので、「自分の持ち味やよいところ」、「仲間から必要とされていること」、「自分が役になっていること」を実感できるような場面を意図的に設け、実践を積み重ねて改善してまいります。ご家庭では、ただ「がんばったね」と褒めるのではなく、子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを認めてあげたり、お手伝いの場面で「ありがとう。助かったよ。」と感謝の気持ちを伝えるなど、1人1人のがんばりをきちんと見ていただけたらと考えます。

【家庭での読書・家庭学習の習慣づくり】⇒ 低学年のうちからしっかり身に付ける



児童アンケートでは、約86%の子どもが「本を読むのが楽しい」と回答したものの、保護者アンケートの「読書に親しむ習慣が身に付いている」では、約74%のご家庭にとどまっています。また、1日10分以上の読書時間をしているご家庭の割合は、約47%という結果でした。

学校では、これまで、美幌出前お話の会「がらがらどん」による朝の読み聞かせや読書タイム、図書館を活用した読書、国語科における読書活動など、子どもたちが本に親しむ活動を取り入れてきました。

北海道では「家読（家での1日10分以上の読書）」が推奨され、語彙力や読解力などの「言葉の力」を伸ばすのに欠かせない時間だとされています。また、近年では、テレビやゲームだけではなく、SNSやYouTubeなどをタブレットで長時間視聴する子が増え、昼夜逆転した生活や不登校、引きこもり、いじめなどが社会問題となっています。家族みんなで、図書館に本を借りたり、時間を決めて家族みんなで本を読んだりするなど、ご家庭で、低学年から読書の習慣が身に付くような工夫が必要です。



児童アンケートでは、約78%の子どもが「宿題や家庭学習をがんばっている」と回答し、保護者アンケートでも約74%と同様の結果でしたが、学習時間については、「学年×10分」以上の学習をしているご家庭の割合は、約51%という結果でした。

北海道では、家庭学習においては「1日学年×10分+10分以上の家庭学習」が推奨されています。中学校・高校への進学を考えて、全ての子どもに低学年のうちから当たり前の習慣として身に付けることが重要です。まずは、宿題と家庭学習で「学年×10分」の習慣を目指していきます。

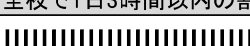
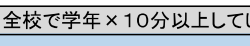
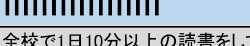
後期学校評価 教育活動アンケート結果

12月に実施しました教育活動のアンケートへのご協力ありがとうございました。保護者アンケートは216名中191名の方からご解答いただき、回収率は88%でした。多くの方からのご協力に感謝申し上げます。いただきましたご意見をもとに、来年度の教育活動の改善に向けて努力してまいります。

1 児童アンケート

	質問項目	A	B	C	D	E	平均	前期比	AとBの割合	
1	宿題や家庭学習をがんばっている。	85	74	31	16	0	3.1	-0.1		77
2	本を読むことが楽しい。	121	54	10	10	11	3.5	+0.1		90
3	学校の授業はわかりやすい。	107	75	14	9	1	3.4	-0.1		89
4	友だちを大切に、なかよくしている。	147	42	4	3	7	3.7	±0		96
5	学校での生活は楽しい。	130	50	13	6	6	3.5	-0.1		90
6	学級の当番や係活動、掃除をすすんでやっている。	125	57	12	4	6	3.5	±0		92
7	運動や遊びなど体を動かすことが好き。	154	33	7	7	5	3.7	+0.2		93
8	元気にあいさつしている。	106	70	11	12	5	3.4	+0.1		88
9	自分にはよいところがある(人の役に立っている)と思う。	50	63	33	24	34	2.8	-0.2		66
10	先生は自分のがんばりをほめてくれる。	101	59	14	8	24	3.4	+0.1		88

2 保護者アンケート

	質問項目	A (4)	B (3)	C (2)	D (1)	E	平均	前期比	AとBの割合(%)	
1	家庭学習の習慣が身に付いている。	47	88	38	16	2	2.9	±0		71
2	読書に親しむ習慣が身に付いている。	35	43	71	38	4	2.4	±0		42
3	「学校の授業は分かりやすい」と言っている。	71	81	21	2	16	3.3	±0		87
4	思いやりをもって生活している。	58	110	15	0	8	3.2	±0		92
5	学校生活を楽しんでいる。	112	61	11	2	5	3.5	-0.2		93
6	家庭では進んでお手伝いをしている。	35	88	56	9	2	2.8	+0.1		65
7	健康に気を配り、運動や遊びに興味を持って取り組んでいる。	76	81	26	2	6	3.2	-0.1		85
8	挨拶など、基本的な生活習慣が身に付いている。	67	102	18	2	2	3.2	±0		89
9	PTA活動などにおいて、家庭と学校の協力関係が築かれている。	30	61	23	6	71	3.0	-0.2		76
10	運動会や学芸会をはじめとする各学校行事は、充実している。	43	56	24	4	64	3.1	-0.1		78
平均時間		1年	2年	3年	4年	5年	6年		全校で1日3時間以内の割合(%)	
11	1日平均、テレビやゲーム・インターネットなどは、どのくらい見ていますか。	85分	115分	122分	102分	127分	139分			96
12	1日平均、家でどのくらい勉強をしていますか。	23分	26分	38分	34分	28分	35分		全校で学年×10分以上している割合(%)	
										52
13	1日平均、家でどのくらい本を読んでいますか。	10分	9分	12分	20分	20分	18分		全校で1日10分以上の読書をしている割合(%)	
										53

3 職員評価

		質問項目	A	B	C	D	E	平均	前期比	AとBの割合	
重点教育目標	1	【重点1 心を磨く】 柱1 道徳実践力を育む道徳教育を推進している。	4	12	2	0		3.1	+0.1		89
	2	【重点1 心を磨く】 柱2 異学年交流によるモラル教育を推進している。	6	9	3	0		3.2	+0.2		83
	3	【重点1 心を磨く】 柱3 体験活動で培う自立と貢献の心を育んでいる。	3	10	5	0		2.9	+0.1		72
	4	【重点2 知を磨く】 柱1 基礎・基本の習得と活用力を育成している。	5	11	2	0	1	3.2	+0.1		89
	5	【重点2 知を磨く】 柱2 知恵を磨くための授業づくりに取り組んでいる。	4	13	1	0	1	3.2	+0.4		94
	6	【重点2 知を磨く】 柱3 学習への関心、意欲を旺盛にする指導を徹底している。	3	14	1	0	1	3.1	+0.3		94
	7	【重点3 体を磨く】 柱1 授業、行事等プログラム上の意図的な取組を推進している。	3	13	2	0		3.1	+0.3		89
	8	【重点3 体を磨く】 柱2 生活の中で自主的に活動できる意識付けと手立てを用いて指導している。	3	11	4	0		2.9	+0.1		78
目指す子どもの姿	9	子どもたちは、気持ちの良い挨拶をし、きまりを守って生活しようと努めている。	3	11	4	0		2.9	-0.4		78
	10	基本的な学習ルールや聞く姿勢の徹底が図られている。	3	12	3	0		3.0	+0.2		83
	11	研修と関連した「できる授業」「分かる授業」により、基礎基本の力や表現力が育っている。	3	13	2	0	1	3.1	+0.3		89
	12	子どもたちは、本に関心を持ち、読書活動に取り組んでいる。	2	11	5	0	1	2.8	+0.1		72
	13	子どもたちは、宿題や家庭学習を継続し、復習や予習、発展的な学習などに取り組んでいる。	3	12	3	0	1	3.0	+0.2		83
	14	日常的な体力づくりにより、運動に対する意欲、体力に高まりが見られる。	4	12	2	0		3.1	±0		89
	15	子どもたちは、一人一人の活動の高まりを認め合うこと（共感的理解）により、自己存在感や有用感を実感してきている。	0	15	3	0		2.8	-0.3		83
教育活動等	16	各学年、教科においてバランスの良い授業時数を確保し、適切に指導している。	7	10	1	0	1	3.3	-0.1		94
	17	集団の一員としての自覚、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成のため、学級活動や学校行事、児童会活動等の充実を図っている。	4	12	2	0		3.1	±0		89
組織	18	職能の向上のため、研鑽と修養に努めている。	7	9	2	0		3.3	±0		89
	19	各分掌が連携を取り、効率的に学校運営を進めている。	10	7	1	0		3.5	±0		94
環境	20	児童が集中して学び、落ち着いて生活できる教室環境や校内環境が整備されている。	7	10	1	0		3.3	+0.1		94
た開 学か 校れ	21	町内小中各校、高校、保護者地域との交流や協力を努めると共に、必要に応じて教育機関との連携を心がけている。	4	6	8	0		2.8	-0.1		56

①成果

設問19「各分掌の連携」、設問16「授業時数」、設問18「職能」、設問20「教室環境」、において高い評価が見られた。前期と比べ、設問5「知恵を磨く授業づくり」、設問6「学習意欲を高める指導」、設問11「研修と関連した授業づくり」に伸びが見られる。

②課題

設問9「あいさつ・きまり」、設問15「自己有用感」は、前期比-0.4、-0.3であり、児童アンケート同様、改善のための方策を検討する必要がある。

後期改善の視点

緊急事態宣言など、現在も予断を許さない状況が続いております。学校においても、行事の中止や変更など、多くの制約を受けていますが、「日常の教育活動の充実」を目標に取り組んで参りました。そのような状況の中でも、多くの子どもたちが、友だちを思いやり、学校生活を楽しんでいる様子が伺えました。

課題は、前期同様「自分には良いところがある（人の役に立っている）」（児童アンケートNo. 9）、家庭での「読書、お手伝い、家庭学習」の習慣づくり（保護者アンケートNo. 2・6・1、児童アンケートNo. 1）です。引き続き、ご家庭と連携を深め、子どもの成長の姿として表れるよう取り組んでまいります。

自己有用感を高めるために

子どもは、クラスの中で友だちに親切にして感謝されたり、クラスのためになることをして友だちや先生から認められたりすることで、存在感を感じることができます。自己有用感は、このような関わりを通して、高めることができます。

Q：子どもの自己有用感が高まるとどんなよいことがありますか？

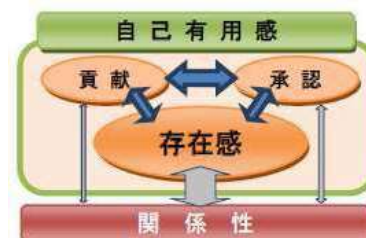
A：集団の中で、自分に自信をもって、生き生きと生活していけます。

自己有用感の高い子どもには、表のような傾向があります。自己有用感が高まると、友だちと協力し合い前向きに学校生活を送るなど、社会性を養うことにつながります。また、壁にぶつかった時もあきらめずに前向きに取り組むことができるようになります。

Q：家庭で自己有用感を高めるために大切なことは？

A：お子さんとの様々な「関わり」を大切にしてください。

中学生や高校生になっても、家族からほめられている子どもは自己有用感が高いといわれています。家庭での関わり方のポイントは、①子どもの話をじっくり聞く機会を設ける。②家事を分担し、責任感と達成感を味わわせる。③子どもの良い面を認め、ほめてほしいと思っていることをほめる。です。



- ・自分に自信がある。
- ・思いやりのある行動ができる。
- ・友だちと協力できる。
- ・学習意欲が高い。
- ・自律的・自主的な生活ができる。

小学生	中学生	高校生
・子どもがほめてほしいと思っていることをほめる。		
・子どもが話を聞いてほしいときに話を聞く。		
・子どもに、学校でどんな勉強をしているのか聞く。		
・子どもと、将来のことについて話をする。		

家庭での読書・家庭学習の習慣づくりのために



北海道では「家読（家での1日10分以上の読書）」が推奨され、語彙力や読解力などの「言葉の力」を伸ばすのに欠かせない時間だとされています。また、家族で読んだ本について話し合うことでコミュニケーションを深めることができます。

家読の習慣づくりきっかけとして、家族みんなで、テレビやゲーム、SNSから離れ、1日10分の読書の時間を設けて、楽しんでみてください。

家庭学習は、中学校・高校への進学を考えて、低学年から全ての子どもに身に付ける必要があります。家庭学習の習慣づくりのためには、お家の方の関わり方がたいへん重要です。

低学年では、お家の方が見守りながら、親子で一緒に学習する姿勢を、中学年では、お家の方が少しだけ関わり、子どもを後押ししながら、自分から進んで学習する姿勢を、高学年では、自分で計画を立てて自発的に学習し、自分で考えながら学力を伸ばす姿勢を育てていくことが大切です。

子どもの発達段階に応じたお家の方の関わり方が「勉強は楽しい。もっとやりたい」という意欲を育てます。



低	丸をつけながらほめる	「すごいね！」「できたね！」「よくがんばったね！」
中	自分から机に向かったらほめる	「自分から始めてえらいね！」「ひとりで最後までできたね！」
高	わからないことを聞きやすい親になる	「辞書で調べてみたら」「自分で調べたの？すごい！」

学校運営協議会評価

1 前期学校運営協議会（令和2年9月30日実施）

（1）学校運営の経過報告・経営方針

- ・組織としての理念が素晴らしい。
- ・学校で感染者が出た他校の対応を参考に、備えをする必要がある。
- ・憶測により不安感が増大し、心無い言動が起こる。個人情報を守った上での、町・学校としての情報発信の方針を万全なものとしなければならない。
- ・対応マニュアルを準備し、保護者の不安に対して、的確にこたえられるようにするべき。
- ・職員一覧と課題について、開示してほしい。

（2）前期学校評価

- ・保護者の意見を次回までに開示してほしい。
- ・家庭で、小さな頃から図書館に通うなど、本に親しむ環境を整える必要がある。

（3）今後の学校運営

- ・雪中運動会など、協力できることがあれば、遠慮せずに投げかけてほしい。

（4）今後の学校運営協議会

- ・感染レベルに応じて、少しずつ活動を再開するため、検討を進める。

2 後期学校運営協議会（令和3年2月26日実施）

（1）学校運営の経過報告・来年度の経営方針

- ・現在は、本を読んで知識を得てきた時代と違い、映像で知識を得る機会が増えたため、読解力の低下が懸念される。
- ・いじめ問題は、周りが個性を理解できないことから生じる。個性を尊重する教育が必要である。
- ・家庭教育力の差が広がっている。若い保護者の方にも理解されるような手立てが必要。

（2）後期学校評価・改善の視点

- ・新聞をとらない家庭・スマホ中心の家庭が年々増え、活字離れが子どもにも影響を及ぼしている。
- ・スマホの使い方について、家での約束ごとを決めずに使わせている家庭も多い。家庭学習時間やゲーム依存などの問題にもつながっている。

（3）今後の学校運営

- ・前回の会議で意見をいただいた、コロナ感染拡大防止・クラスター発生時の対応については、「よくわかる旭小のコロナ対策」を発行し、保護者の理解を求めた。
- ・美幌町の運動会までの方向性を踏まえ、対応する。運動会については、飲食を伴わない形で実施するため、コミスクの活動については、4月に会議をもって方向性を決定する。

（4）今後の学校運営協議会

- ・感染レベルに応じて、少しずつ活動を再開するため、検討を進める。